

# 和歌山県の地震

令和7年10月

## 1. 和歌山県の地震活動

震央分布図	1
概況	1
断面図	2
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧	3
震度分布図	3

## 2. 地震一口メモ

南海トラフの地震活動に関する長期評価の一部改訂について

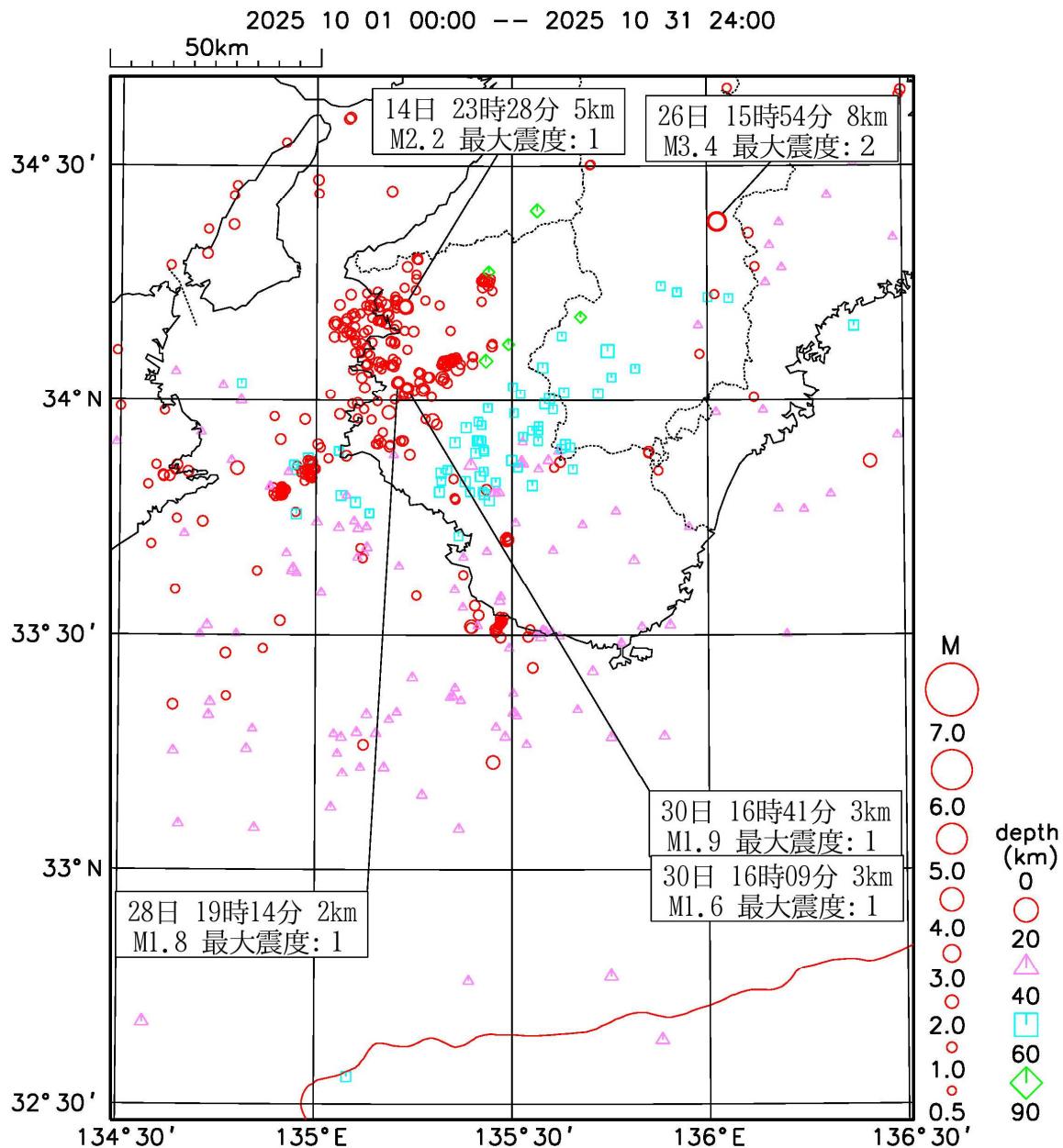
5

- \* この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- \* この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- \* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- \* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

# 1. 和歌山県の地震活動

## 【震央分布図】



震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

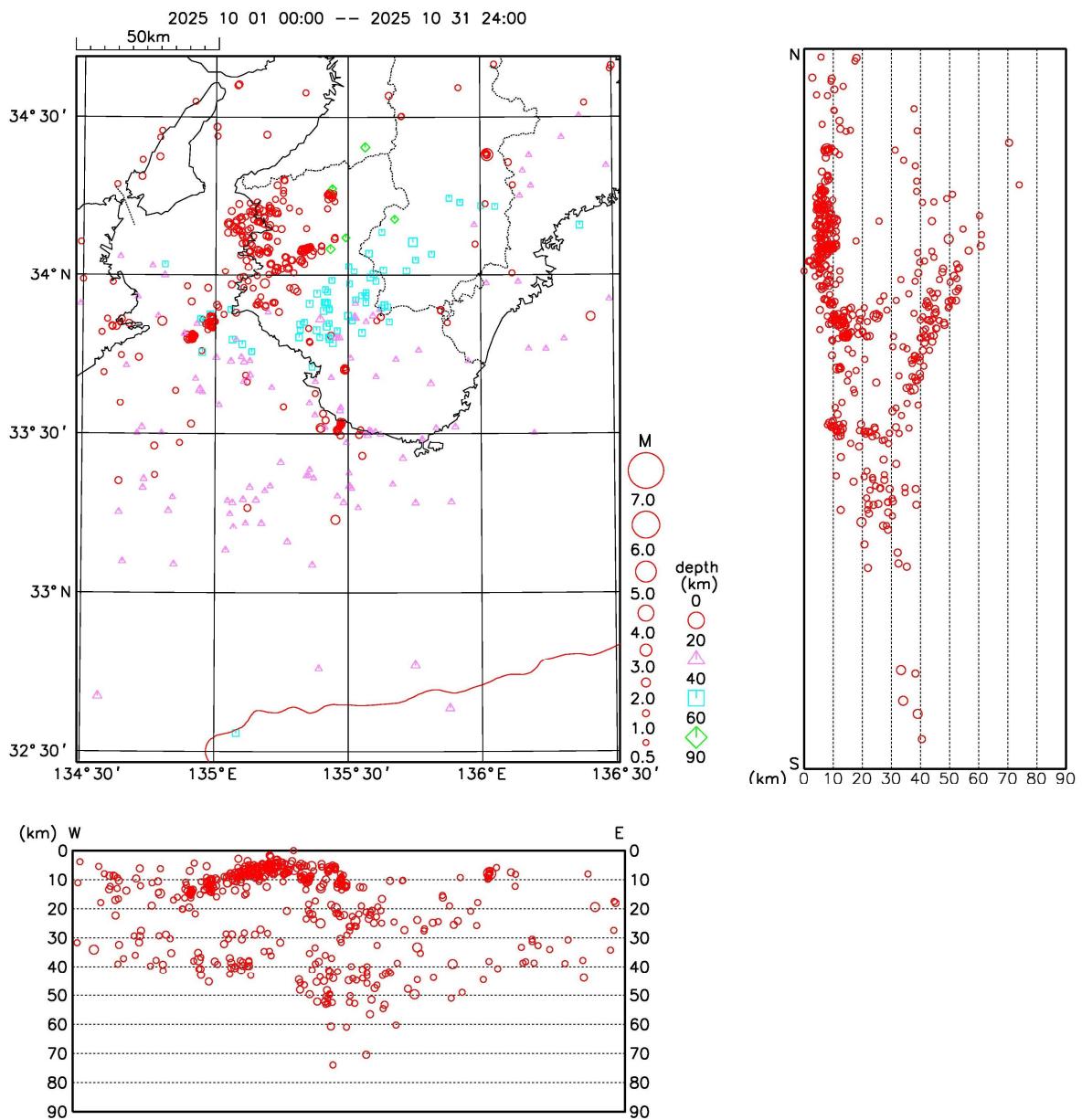
図中の吹き出しが、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しており、日時、深さ、マグニチュード、最大震度を記載しています（最大震度は、和歌山県内とは限りません）。

## 【概況】

10月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0以上の地震は20回（前月は29回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、26日15時54分 奈良県の地震（M3.4、深さ8km）でした。この地震は地殻内で発生しました。

10月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、4回（前月5回）でした。

## 【断面図】



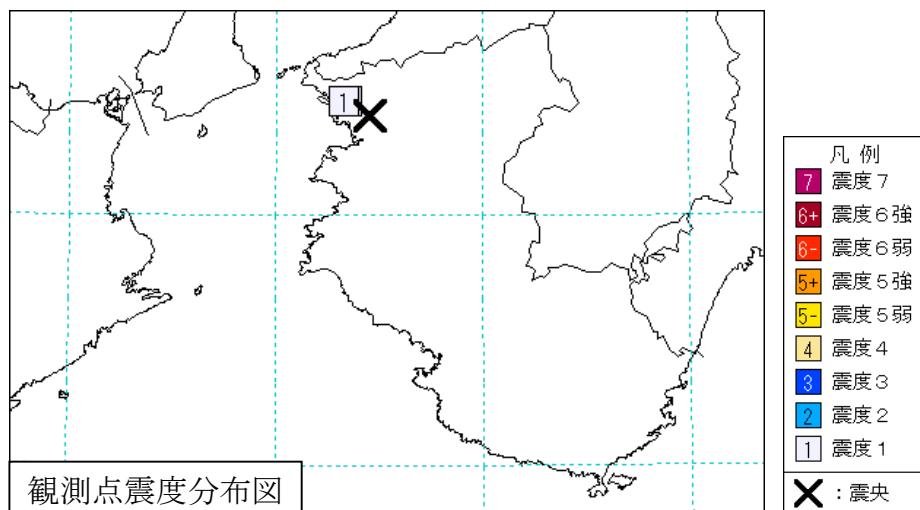
## 【 和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧 】

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内ののみ掲載）					
2025年10月14日23時28分	和歌山県北部	34° 11.9'	135° 13.6'	5km	M2.2
和歌山県 震度 1 :	和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*				
2025年10月28日19時14分	和歌山県北部	34° 02.3'	135° 12.5'	2km	M1.8
和歌山県 震度 1 :	湯浅町青木*				
2025年10月30日16時09分	和歌山県北部	34° 01.5'	135° 13.9'	3km	M1.6
和歌山県 震度 1 :	湯浅町青木*				
2025年10月30日16時41分	和歌山県北部	34° 01.5'	135° 14.0'	3km	M1.9
和歌山県 震度 1 :	湯浅町青木*				

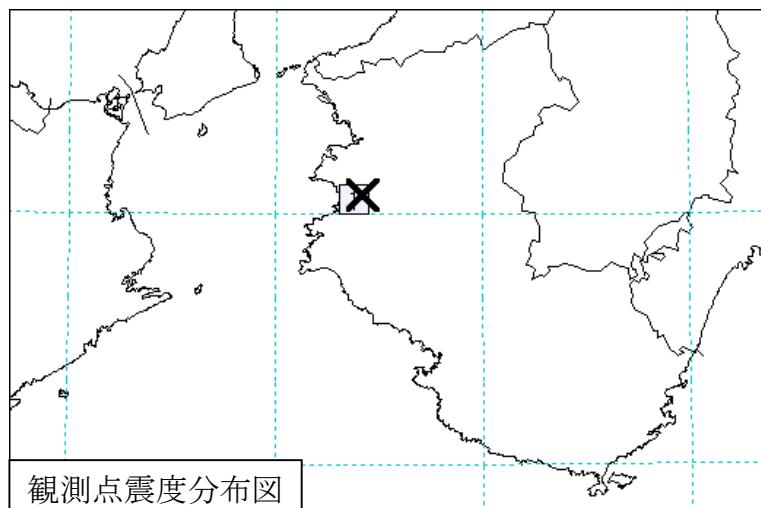
地点名の最後に\*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

## 【 震度分布図 】

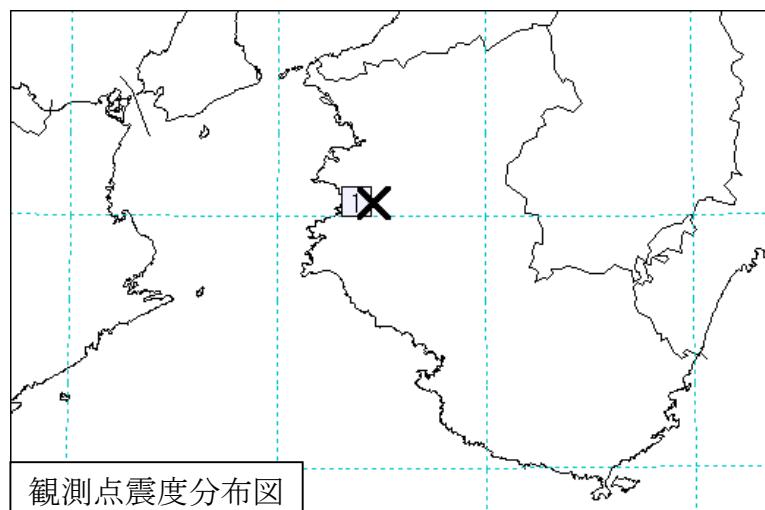
2025年10月14日23時28分 和歌山県北部の地震（深さ 5km、M2.2）



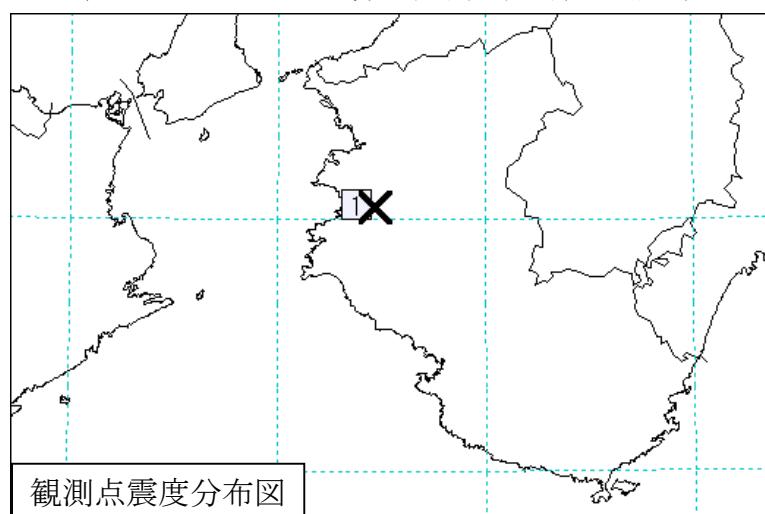
2025年10月28日19時14分 和歌山県北部の地震（深さ 2km、M1.8）



2025年10月30日16時09分 和歌山県北部の地震 (深さ 3km 、 M1.6)



2025年10月30日16時41分 和歌山県北部の地震 (深さ 3km 、 M1.9)



## 2. 地震一口メモ

### 南海トラフの地震活動に関する長期評価の一部改訂について

文部科学省に設置されている地震調査研究推進本部地震調査委員会は、南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）の公表後に得られた最新の知見をもとに見直しを実施し、令和7年9月26日に第二版の一部改訂として公表しました。

改訂部分は地震発生確率に関する部分のみで、これまでには、高知県室津港の地震発生時の隆起量を基にした「時間予測モデル」を用いて計算されていましたが、今回の改訂では、新たな発生確率計算モデル「すべり量依存BPT モデル」を採用したほか、多くの海溝型地震で使われている「BPT モデル(\*1)」での計算も行いました。

M8～9の地震	計算方法	用いたデータ	ランク (2025年1月1日時点の 今後30年以内の地震発生確率)
第二版	時間予測モデル	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (80%程度)
第二版一部改訂	すべり量依存BPTモデル	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (60%～90%程度以上)
	BPTモデル	・地震発生履歴	Ⅲランク (20%～50%)

※地震調査委員会の資料を編集

今回の改訂により、地震発生確率の値が変わりましたが、これは計算手法等が見直されたことによるものであり、危険度が変化したわけではありません。地震の発生確率を大まかに分けた区分であるランクは両モデル共にこれまでと同様に最も高い「Ⅲランク(\*2)」に分類されます。また、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震、昭和南海地震）が発生してから約80年が経過しており、次の南海トラフ地震発生の切迫度は高い状態であることに変わりはないことに留意してください。

特に和歌山県では、次の南海トラフ地震が何時どのような形態で発生しても、地震による激しい揺れや、高い津波が直ぐに来襲することが想定されますので、引き続き地震発生に対する防災対策や日頃からの備えに努めていくことが必要です。

なお、本紙では、今回の長期評価の一部改訂を簡潔に紹介したものです。より詳細な事項については、地震調査研究推進本部のホームページ「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」をご覧ください。

[https://www.jishin.go.jp/evaluation/long\\_term\\_evaluation/subduction\\_fault/](https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/)

\*1 BPTモデル：「Brownian Passage Timeモデル」。地震の発生間隔にばらつきがあることを考慮した統計的なモデル。

\*2 Ⅲランク：海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「Xランク」と表記している。